

伊勢原市議会創政会 「住民協議会」報告書

2017年4月19日

構想日本

目次

・はじめに—————P 2

・実施概要—————P 3

・改善提案シートの記載内容とりまとめ———P 4～10

・アンケート結果とりまとめ—————P11～19

はじめに

伊勢原市議会会派「創政会」は、市の課題を事実に基づいて具体的に把握し、解決策として個人や地域でできることや行政がすべきことを、無作為抽出で選ばれた市民とともに考える「住民協議会」を、2017年2月と4月の2回にわたり実施した。

これは創政会が4年間実施してきた「事業仕分け」をさらに一歩進めるものである。一つのテーマについて住民、外部、議員がそれぞれ違う視点から、フラットに議論し、改善策を考えるこの住民協議会は、日本の新たな地方議会のあり方を示し得る非常に先駆的な取り組みと言え、議会として全国で初めて実施した創政会に心より敬意を表する。

議論の進め方は、「コミュニティ施設」について行政の説明で現状把握を行い、3つの分科会にわかれて課題とともに（1）個人としてできること、（2）地域・民間でできること、（3）行政がすべきことの順に解決策を議論した。通常、構想日本が行政と住民協議会を実施する場合、この流れを4～5回の議論でとりまとめることが多いが、今回は2回の議論でとりまとめとなったため、議論が駆け足となり消化不良の感があったことは否めない。

しかしながら第2回会議後にとったアンケートでは、84%の委員が住民協議会に参加して非常に満足もしくは満足と回答しており、市民がコミュニティ施設について考えるきっかけとして効果的な場であったとすることができるだろう。

今回の2回の協議会の中で「コミュニティ施設」について、多岐にわたる論点が提起された。ただし、この協議会は1つの結論を導き出すことが狙いではなく、様々な材料を出すことに主眼をおいた。これらの多くの材料については、創政会として今後の議会活動に活用して、課題の解決に向けてイニシアティブを発揮していただきたい。

今後も全国の議会のモデルとなるよう更に改善を加えながらこの取り組みを継続していただきたい。構想日本も全力でそのサポートをしたいと考えている。

2017年4月
構想日本

実施概要

名称：伊勢原市住民協議会

主催：伊勢原市議会 会派「創政会」

協力：構想日本

テーマ：「コミュニティ施設」

参加者：

住民協議会委員（無作為に選ばれた1000人の中から応募のあった市民、過去の事業仕分けに参加した市民）	応募者数：38人（うち14人が過去仕分け参加者） 第1回：31人、第2回：26人
伊勢原市役所（第1回のみ）	各施設所管課課長
伊勢原市議会創政会所属議員（○は分科会長）	第1分科会：○館大樹、大山学、八島満雄 越水清 第2分科会：○山田昌紀、小沼富夫、米谷政久 第3分科会：○萩原鉄也、国島正富、斉藤裕樹
コーディネーター	第1分科会：伊藤 伸（構想日本 総括ディレクター） 第2分科会：熊谷 哲（PHP 総研 主席研究員） 第3分科会：田中 俊（構想日本 政策スタッフ）
ナビゲーター（第2回のみ）	第1分科会：福嶋浩彦（中央学院大学教授、元我孫子市長、元消費者庁長官） 第2分科会：土居丈朗（慶應義塾大学経済学部教授） 第3分科会：松野英男（浜松市職員）

各回会議概要：

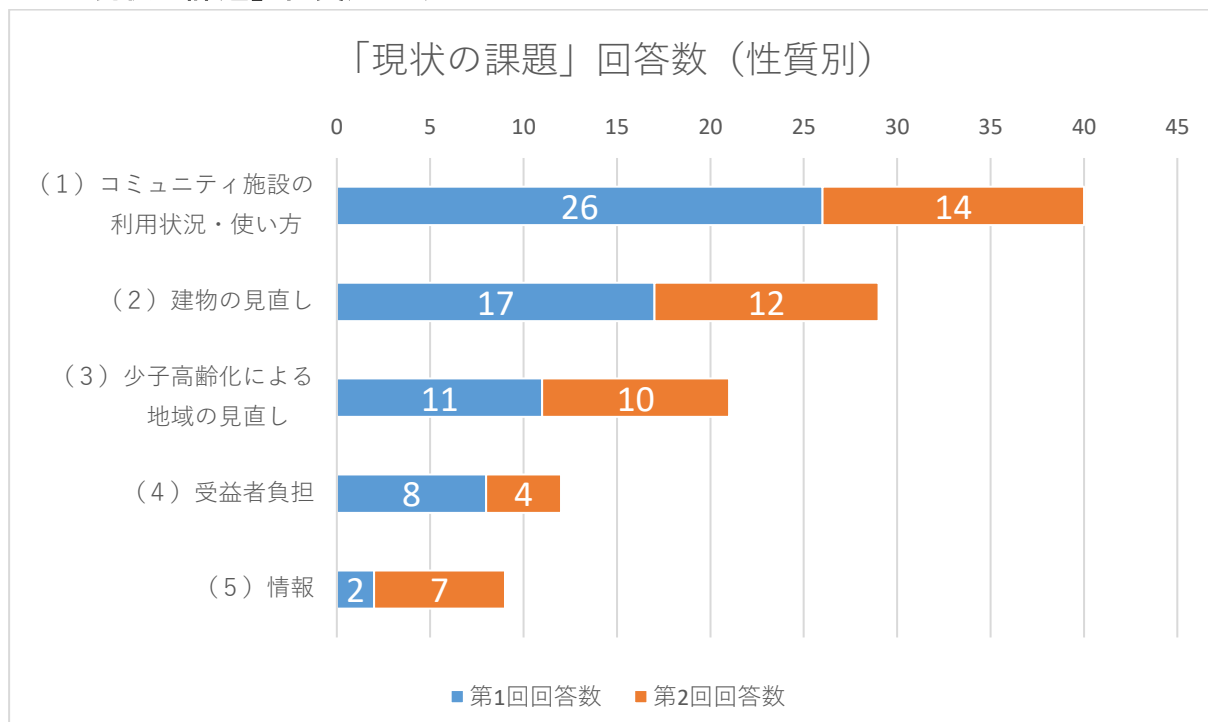
第1回会議 日時：2月5日（日）13：00～16：30 場所：伊勢原シティプラザ 次第：あいさつ（創政会、構想日本） 住民協議会について説明（構想日本） 公共施設の全体像説明（伊勢原市役所） 分科会で協議 各分科会での議論内容の共有 ※オブザーバーとして河野太郎衆議院議員が参加	第2回会議 日時：4月9日（日）13：00～16：30 場所：伊勢原シティプラザ 次第：あいさつ（創政会、構想日本） 前回の振り返り（構想日本） 論点提起（ナビゲーター） 分科会で協議 各分科会での議論内容の共有
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

傍聴者：第1回30人、第2回20人

「改善提案シート」記載内容 とりまとめ

伊勢原市住民協議会の第1回、第2回会議で各分科会において委員が記載した「改善提案シート」の内容を、以下の通り性質ごとに分類した。

○ 「現状の課題」性質別とりまとめ



コミュニティ施設の稼働状況の悪さや利用方法に関する課題が最も多かった。特に使い方については、利用者の視点からの具体的な提案が多かった。また老朽化や総量の見直しについて、施設の使用料の有料化についてなど、負担等に繋がるような意見が多く出たことは、大きな特徴と言える。

併せて少子高齢化、特に子どもの減少による地域（自治会等）の衰退に関する課題も多く出た。施設と地域コミュニティは密接に結び付いていることが影響しているからと考えられる。

また第2回会議では、「施設の課題が市民に伝わっていない」という情報面での課題を記載する市民が増加している。

○ 委員からの改善提案概要（黒字：第1回意見、赤字：第2回意見）

(1) コミュニティ施設の利用状況・使い方

課 題		公民館、児童館、福祉館があまり利用されていない／施設ごとに利用頻度のばらつきがある。
改善提案	個人の実組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニティ施設に関心を持つ。 ・ 色々なことに参加する。 ・ 個人のニーズを発信する。 ・ 施設で何ができるのか情報を得る。 ・ 施設の利用目的や必要性を今一度考える。
	地域の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 維持管理が可能な部分のサポートをする。 ・ 立地の悪い施設への送迎の検討。 ・ グループの活性化と自治会等の積極的な利用。 ・ 地域のニーズを発信する。 ・ どのようなことに活用できる施設なのか情報を提供する。 ・ 施設が本当に必要なのか話し合う。
	行政の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 同じ目的の施設なのに複数の課に分かれているので、コミュニティ施設の窓口を一本化する。 ・ 住民と協議しながら魅力が増すような更新を行う。 ・ 利用しやすい場所に集約する。 ・ 整理統合を行ない、残した施設を魅力的にする（特にトイレのバリアフリー化）。 ・ 施設が利用されない真因を考える。 ・ 未予約のスペースを開放し、フリースペースにする。 ・ 地域が出す施設の使い方の情報に加えて、市全体としての情報提供を行う。 ・ 地域のニーズに応じた利用ができるようなイベントやサービスの実施。

課 題		施設の利用者が固定化している。
改善提案	個人の実組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニティ施設に関心を持つ。 ・ コミュニティ施設での活動に参加してみる。
	地域の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 頻繁に利用する高齢者以外にもコミュニティ施設のことを宣伝する。
	行政の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろな人が利用しやすいようにする。 ・ 地域の新聞で市民にPRする。

課 題		コミュニティ施設の最適な使い方ができていない。
改善 提案	個人の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・ まずは使ってみる。 ・ ニーズを考える。 ・ 自分が使っていない施設についても知る努力をする。 ・ 地域の実情に応じた使い方を考える。 ・ コミュニティ施設を使った行事に参加する。 ・ 参加している人に話を聞く。
	地域の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・ 使い勝手をみんなで話し合う。 ・ それぞれのニーズをまとめる。 ・ 女性部による清掃を続ける。 ・ 地域内の施設のアンケートを取る。
	行政の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政としてニーズ調査を行う。 ・ 個々の施設の満足度調査を行う。 ・ 広告を出してPRをする。 ・ 自治会との議論をより活発に。 ・ 利用目的が合わない施設を使うケースが日常化しているので、集約したうえで誰でも使えるようにする。 ・ 施設の位置図を作成し配布する。 ・ 複合施設として多目的化を図り、利用しやすいようにする。 ・ 施設の総量を減らす。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中央児童館のバリアフリー化、雨漏り対策、電球を明るく。

課 題		予約システムを使える施設が一部だけしかない。
改善 提案	個人の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・ 抽選予約システム開始時間の変更（朝 5 時～⇒7 時～）
	地域の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各サークルで問題点を考え、提案する。
	行政の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・ 空室があれば当日利用を可能にする。 ・ 1 カ所で申し込んだら他の施設のサークル登録もできるようにならないか。 ・ 全体の施設が見渡せる仕組みを作る。 ・ どこにどの施設があるのかわかりやすくする。

課 題		駐車場が狭かったり公共交通が使えないなどアクセスの悪い施設がある。
改善 提案	個人の実組み	・ できる限り乗り合いをして駐車場を確保する。
	地域の実組み	
	行政の実組み	・ 土地の確保。 ・ 周辺の実設の統廃合の検討。

(2) 建物の見直し

課 題		コミュニティ実設の総量見直しが必要。
改善 提案	個人の実組み	・ 実設の評価について一律の評価基準を持つようにし、評価基準を作るためのアイデアを考える。
	地域の実組み	・ 自治会でも整理統合を検討する。 ・ 「もしもこの実設がなくなったらどうするか」というアンケートを行う。
	行政の実組み	・ 小中学校の空いている教室の活用。 ・ 一律の実設評価の基準を作り評価を試みる。 ・ 実設を統廃合し総量を縮減する。 ・ 市全体で使う実設は残し、コミュニティで使う実設は人口減少とまちづくりのあり方などを考え判断する。 ・ 厚木や平塚と実設の相互利用を進める。 ・ 利用が少ないことなどの実設の問題を市民と協議する場を設ける。 ・ 利用率や経費だけでなく、機能面での代替実設を含めて検討する。 ・ 行政の縦割りでの区分（公民館、児童館…）ではなく、住民の利用実態でその地域に必要なのか判断する。 ・ 行政が主体的に統廃合に向けて地域住民と協議する。 ・ 老朽化実設の更新時に学校実設との複合化を考える。

課 題		使う目的は変わらないのに施設の名称が様々で混乱する。
改善 提案	個人の実組み	・ どこにどの施設があるかを知る。
	地域の実組み	・ 自治会などで集まる機会やイベントを増やす。
	行政の実組み	・ 名称や関係部署（窓口）の統一化。 ・ 公民館、コミセン、児童館、福祉館の管理、評価、将来計画を一本化する組織を作る。
	その他	・ 民間企業や地元商業施設とのイベントを企画できないか。

課 題		老朽化の進んでいる施設が多い。
改善 提案	個人の実組み	・ 利用状況を認識する。 ・ 多少の不便は我慢して統廃合に賛成する。 ・ 公共施設の必要性をもう一度考える。 ・ 現状の課題を広めるために SNS 等で発信する。
	地域の実組み	・ 古くなったことをチャンスと捉え本当に必要なかを話し合う。 ・ 自治会活動の活発化を図る。
	行政の実組み	・ 公民館、コミセン、児童館、福祉館の管理、評価、将来計画を一本化する組織を作る。 ・ トイレを和式から洋式への転換を進める（防災の観点からも必要）。 ・ 自治会に判断を丸投げするのではなくある程度のリーダーシップを取ってほしい。 ・ 売れる土地は売り、集約を進める。 ・ 施設の統合、複合化を進める。
	その他	・ ハコモノは必ず老朽するのだから建設時から引当金や整備費を考えて、次代にツケを回さない運営が大切。 ・ 行財政改革推進計画と公共施設等総合管理計画の財政改革の視点でのつながりが希薄ではないか。

(3) 少子高齢化による地域の見直し

課 題		少子高齢化への対応が急務（子どもが少ない）。
改善 提案	個人の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分なりに何が必要なのかを考えてみる。 ・ 若い人の意見をもっと取り入れられるよう自治会の参加率を上げる。 ・ 伊勢原の魅力をアピールする。 ・ 大人より子供を優先する行政に対して理解する。 ・ 子供と高齢者が関わり合うようにする。
	地域の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域で何が出来るかを自治会単位で話す場を持つ。 ・ 若い人が関わりやすい工夫を考える。 ・ 子供も高齢者も集えるフリースペースを設ける。
	行政の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政が考えていることを見える化する。 ・ 高齢者を講演に呼ぶ設備を考えてほしい。 ・ 子供最優先の施策を推進する。 ・ 子供と高齢者の担当課と一緒に課題を考える。

課 題		自治会単位の見直しなど地域の持続可能性を検討する。
改善 提案	個人の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自治会館等の補修、点検箇所が見つければ自治会長に連絡する。 ・ 自治会の法人化について勉強する（自治会の中では若い方なので関心を持って参加する）。
	地域の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域のエゴをなくし協力する ・ 若い世代に古い慣習を押し付けないよう気を付ける。 ・ 法人化し、先を見越した運営ができる体制を作る。 ・ 個人の生活のありたい姿、その先の地域のありたい姿を考える。
	行政の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住民協議会等の意見の収集と客観的データに基づく戦略を市政に反映してほしい。 ・ 自治会の法人化のメリット、デメリットを地域に説明する。

(4) 受益者負担

課 題		施設の利用料金の有料化の検討が必要。
改善 提案	個人の実組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者として費用を負担する。 ・ 施設の維持管理費用に関しても受益者負担として利用料金を払う（水道光熱水費など）。
	地域の実組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設を活用したサークル活動をより推進する。 ・ サークルに対して年会費や月会費の検討。
	行政の実組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用料金を取った場合の試算を行う。 ・ 利用者の反発が出ない工夫を考える。 ・ 利用団体の目的により有料化とする。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 負担をしても良いと思うが反対する人も多いのでは。 ・ 有料化に向けての判断材料が公表されていないので判断できない。

(5) 情報

課 題		施設における課題が市民に伝わっていない。
改善 提案	個人の実組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市の広報、ホームページに目を通す。 ・ 自治会活動にもっと参加する。 ・ 改善、改革の意見を市に提案する。
	地域の実組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自治会と行政との連携をより密にする。 ・ 地域住民間での情報収集・交換を行う。
	行政の実組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公共施設の利用実態についての現状把握、分析が公表されていない。 ・ パブコメではなく説明会を実施する。 ・ 財政状況も含めた将来の長期計画を公表する。

アンケート結果 とりまとめ

第1回会議アンケート結果

○協議会委員アンケート

・回答者数：26名（参加委員数31名） 回答率84%

・回答者年齢構成：

20～29歳	0名
30～39歳	0名
40～49歳	6名
50～59歳	5名
60～69歳	7名
70歳～	8名

・参加のきっかけ（自由記述）

<ul style="list-style-type: none">・勉強の一環・コミュニティ施設を利用することが増えてきたから・地域に貢献したい・変化の無い毎日・前回の事業仕分けに参加し、勉強になった・市議会議員に直接意見を述べる事ができる・市に意識を向けようと思った・せっかくの機会	<ul style="list-style-type: none">・市を魅力ある町にしていきたい・一市民として市の現状に関心をもつこと・ボランティア活動を通じて市の現状は知ってる。問題解決に向けて協力したい・案内をもらったから・福祉活動に関心・興味があった・施設利用者で、施設が使いづらいと感じていた・公共施設の有料化？・議会の内容に関心・市の現状を聞ける、提案できる
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

1. 説明者（市職員）の説明について

非常にわかりやすかった	4 (15%)
わかりやすかった	5 (19%)
ふつう	12 (46%)
わかりづらかった	4 (15%)
非常に分かり辛かった	0
その他	1 (4%)

- ・見にくい、読みづらい
- ・行政視点の説明
- ・何を伝えたいのかよく分からない
- ・ここが問題というようなポイントを示してほしい
- ・PCのスライドのみだけでなくプリント資料が欲しい

2. 説明資料(公共施設白書)について

よかった	5 (19%)
ややよかった	6 (23%)
ふつう	10 (39%)
ややわるかった	2 (8%)
わるかった	1 (4%)
その他	2 (8%)

- ・ 見にくい、読みづらい
- ・ 全施設一覧があるともっとよかった
- ・ 認識していなかった
- ・ 利用率が悪いと思っていた施設の数値が示されていて理解しやすかった
- ・ 数値、グラフが分かりやすかった
- ・ 市の明確な方針をもっと市民にアピールすべき

3. コーディネーター、議員の議論について

よかった	12 (46%)
ややよかった	4 (15%)
ふつう	3 (12%)
ややわるかった	0
わるかった	0
その他 無回答含む	7 (27%)

- ・ 現状の課題認識のスタートになった
- ・ 議論全体を上手に方向づけながら参加者の意見を吸い上げていた
- ・ 話をさえぎらず、ちゃんと聞いてもらえた
- ・ もう少し議論の道筋を見せてもらえたら意見がもっと出たのでは
- ・ いてもらわないと、話がしにくいと思う
- ・ 参加者の意見をよく引き出されていた
- ・ 時間管理がよくできていた

4. 次回に向けての要望、ご意見等

<ul style="list-style-type: none"> ・ 少子高齢化における対策について ・ 市の中心から過疎地に公共施設の配置を ・ 施設の格評価軸を作り、施設の再配置を考える(交通の便、広さ、清潔さなど) ・ 分科会 1 グループの人数が多く、離れた人の声が聞こえにくい。半分の人数でよいのでは ・ コーディネーターは議員で十分対応できると思う ・ 同じ市内でも課題が異なっている ・ 河野代議士のお話は参考になった ・ 2 回目に向けて、行政からこういう資料を出してほしい等あれば 2 回目がより充実した議論になると思う 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自治会との関わりが深い内容なので、各自治会長に参加してもらえたら有意義 ・ 映像があるといい ・ 多様な方が集まり、意見が散逸しやすい。テーマに関して行政の具体的な方針を示したうえで議論しないと時間浪費 ex) 高齢化、人口減による財政圧迫、施設の具体的な施策をメリットデメリット付記して問題提起 ・ このような井戸端会議でいいのか
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

○傍聴者アンケート

・回答者数： 10名

・回答者年齢構成：

20～29歳	1名
30～39歳	1名
40～49歳	2名
50～59歳	2名
60～69歳	3名
70歳～	1名

・参加のきっかけ（自由記述）

- ・議会会派主催の住民協議会が全国初ということで、議論の展開の仕方に興味
- ・住民協議会というものに興味
- ・市の課題の中でどのような分野が大事か知りたかった
- ・無作為抽出の研究
- ・市政に興味

1. 説明者（市職員）の説明について

非常にわかりやすかった	2 (20%)
わかりやすかった	5 (50%)
ふつう	3 (30%)
わかりづらかった	0
非常に分かり辛かった	0
その他	0

- ・全ての施設を維持するお金が行政にないことが分かったが、その原因（税収減？福祉？ムダが多い？）が分からないと施設を減らす必然性に納得できない
- ・説明は丁寧だったが、その後に議論をするための説明ではなかったため、議論がしにくくなる
- ・普段は関わりが無いので、それぞれの説明で認識できた
- ・利用者サイドからの提示、分析が無い

2. 説明資料（公共施設白書）について

よかった	4 (40%)
ややよかった	1 (10%)
ふつう	1 (10%)
ややわるかった	0
わるかった	0
その他	2 (20%)

- ・資料としてはわかりやすい

3. コーディネーター、議員の議論について

よかった	4 (40%)
ややよかった	1 (10%)
ふつう	1 (10%)
ややわるかった	0
わるかった	0
その他 無回答含む	4 (40%)

- ・よく市民の意見を引き出し、まとめていた
- ・端に座ると声が届きにくかった正方形の方が良いのでは
- ・素朴な疑問(施設名が似ているようで違う理由など)が出て、そこに時間をとってもらえてよかった
- ・議員さんがかなり細部まで把握していて説明してくれたので議論の質が保たれた
- ・議論の整理、進め方がよかった

4. 次回に向けての要望、ご意見等

- ・任意参加者の選出に工夫を。利用団体からの代表を集める
- ・市の説明は行政の説明でなく、あくまでも情報提供の位置付をしたほうがよい
- ・事業仕分けよりも住民が中心で話し合える形式が良かった
- ・他市での経験だが、社会教育施設の利用率が低いのは「社会教育」の定義を厳密にしすぎているためかもしれない
- ・例えば、多少お金をとったりお酒を飲んでも良いのでは。広い意味で文化ととらえればより多様な利用につながるのでは
- ・早い段階で参加者から有料化という声が出ていて「要望合戦」にしないというのがよく理解されていたと感じた
- ・市として地域にゆだねるのであれば、このような話し合う訓練を何らかの形で準備しないともめてしまうかも

第2回会議アンケート結果

○協議会委員アンケート

- ・ 回答者数： 25名（参加委員数 26名） 回答率 96%
- ・ 回答者年齢構成：

20～29歳	0名
30～39歳	0名
40～49歳	7名
50～59歳	4名
60～69歳	5名
70歳～	9名

1. 住民協議会に参加していかがでしたか？

非常に満足	4 (16%)
満足	17 (68%)
どちらとも言えない	3 (12%)
不満	0
非常に不満	0
無回答	1 (4%)

- ・ いままで関心がなかったものに関心を持つようになった
- ・ 色々な意見があるなといまさらながら知らされた
- ・ 色々な方々の意見や考えが聞けるいい期会でした。参加することで市の事が分かって違った見方が今後できる
- ・ 色々な考えを聞いて参考になりました！
- ・ 各自の考えを述べるのみ
- ・ このような意見交換の場を多く持ってください
- ・ 最近こうした「ナビ・コーディネーター」等の幅広い層の人たちとの交流の場で意見交換が出来たこと
- ・ 様々な意見を聞くことが出来て良かった
- ・ 市政に直接意見を言うことが出来た
- ・ 市民生活について深く考える機会となった
- ・ 知らないことが多くありました。いい勉強になりました
- ・ 積極的に社会参加できる機会を頂きました
- ・ 本日の内容はでるであろう内容ですが、中々判断に困る
- ・ 身近にあるがどう使われているのかわからなかった
- ・ 皆さんの発言が多くて個々のお気持ちが分かったように思います。

2. 今回のテーマ「コミュニティ施設」は住民が考える内容としてはどう思いますか？

非常に良かった	5 (20%)
良かった	16 (64%)
どちらとも言えない	3 (12%)
悪かった	0
非常に悪かった	0
その他	0
無回答	1 (4%)

- ・ 当たり前の話だと思うが、年齢層が広くて良かった（小学生の子どもがいる人とか退職してボランティアに励んでいる先輩とか）
- ・ 意見を述べることが出来た
- ・ 伊勢原の財政や税金がどう使われていくべきか多くの人が住みたいと思える市にするために、一人一人が考えていくべき内容だと思う
- ・ 色々なご意見があり、有意義な時間を過ごせました
- ・ いろんな角度から見る事が出来た
- ・ コミュニティを作る上でも大切なことだと思いました！
- ・ これだけの「市議団」が揃った中での現状の市政問題のしぼり方に多少の疑問を持って参加しました
- ・ 自治について根本から考えさせられた
- ・ 住民のサークル活動の拠点としては重要な施設だから
- ・ 上記と同じであるが、解釈を吟味できる人が考えて最大の試案をする。個人では難しい
- ・ 税金を払っているので
- ・ 多世代に関わる問題提起となった
- ・ 特に市民活動に一番身近なテーマで適切
- ・ 身近な問題として取り組めた
- ・ 利用実態が良く分かった
- ・ 老朽化が進んでいる建物が多いし、利用者も場所によって少ないので、改善が必要だから
- ・ 論点として分かりやすい
- ・ 私的には良かったと思うが、これから先を考えるともう少し若い方々の参加を大串、先々を考えていかれたら…と感じました

3. 住民協議会に参加したことで意識に変化はありましたか？

(コミュニティ施設や行政、議会のことなど)

変わった	18 (72%)
変わっていない	6 (24%)
わからない	0
無回答	1 (4%)

- ・ 2回の中に考えが出てきたり、公民館に行った時の意識が変わった
- ・ 意見交換や情報を得ることで興味が増した

- ・意識から確認！意識の芽生え
- ・伊勢原市のことを深く考えるようになった
- ・伊勢原市の問題がわかった
- ・以前より関心があったから
- ・色々なことに参加しているので、これからもたずさわれたら…と思います
- ・各施設の利用実態が良く分かった
- ・コミュニティ施設に関心を持つようになった
- ・これまでは漠然と考えていたが少し深く考えるようになった
- ・今回は良い知恵が出なかったがなにか役に立つことがあれば考えられた
- ・さらにスキルアップ
- ・次世代に課題を残していかないためにどうしていくのか考えさせられた
- ・自治会に興味を持って協力していきたい
- ・市内の施設に関する意識及び市の行政に関する意識が変わりました
- ・市の財政の状況について理解を深めることが出来た
- ・住民一人一人が住みよい街づくりに参加する必要性を感じた
- ・スポーツに関してお手伝いしていけたらとも思います
- ・また来たいと思えたから
- ・皆様の考え方に同調できる面も出てきました
- ・利用しようと思う様になった

4. 住民協議会に参加したことで行動に変化はありましたか？

(コミュニティ施設や行政、議会のことなど)

変わった	6 (24%)
これから変える	10 (40%)
変わっていない	8 (32%)
わからない	0
無回答	1 (4%)

- ・伊勢原市が今後どのようにするか問題（施設以外の件）の考えを述べたい
- ・伊勢原市について関心を持つようになった。いままで歩かなかったところを歩くようになった
- ・今まで通り参加していく
- ・色々な人の耳を傾けていきたい
- ・多くのコミュニティ施設の内容が良く分かったことを地域住民に伝えていきたい
- ・関心を持つようにしたい
- ・公共施設に対しての見方を深めていきたい
- ・市政に対する関心
- ・施設をみかけると注意深くみるようになった
- ・自治会に参加して、協議会の話伝えることが必要だ
- ・市の問題点を個人的に考えていきたい

- ・自分の考えを発表する機会があって良かった
- ・テーマについてインターネットで調べたりして他の行政も同じようにやっていたり、いろいろな意見があって参考になった
- ・八幡台集会所の前を良く通るので外からですが、自転車の台数を記憶した
- ・連携してパワーアップする

5. 住民協議会に参加する以前に、伊勢原市役所とどの程度かかわりがありましたか？

ほとんど行ったことがなかった（たまに住民票を取りに行く程度）	10 (40%)
年に数回は行っていた（職員とある程度話をする）	8 (32%)
頻繁に行っていた	4 (16%)
その他	2 (8%)
無回答	1 (4%)

・その他（それなりに話す機会がありました、仕事の関係で関りがあった）

6. 住民協議会に参加する以前に、伊勢原市議会とどの程度関りがありましたか？

議会を傍聴したことがある	8 (32%)
議会の傍聴をしたことは無いが広報紙には目を通す	8 (32%)
議会の活動内容はほとんど知らなかった	8 (32%)
その他	1 (4%)
無回答	0

○傍聴者アンケート

・回答者数： 4名

1. 委員（伊勢原市民）の議論について、どう思われましたか？

非常に良かった	1 (25%)
良かった	2 (50%)
どちらとも言えない	0
悪かった	0
非常に悪かった	0
その他	1 (25%)

・積極的に参加しているようではなかった

- ・参考になるご意見、多々ありました
- ・1人ひとり自分の意見をしっかり言えている気がしました
- ・市民と議会の会派の議論、議論内容が良かった。議題に沿った議論だった

2. コーディネーター、議員の議論について、どう思われましたか？

非常に良かった 1 (25%)

良かった 1 (25%)

どちらとも言えない 1 (25%)

悪かった 0

非常に悪かった 0

その他 1 (25%) ・上手い人も下手な人も

- ・住民の自治意識を引き出していける人は、うまく聞いてあげられる人であるのでしょう
- ・市民の発言を誘導する方向にならず、自ら発言が主体
- ・論点整理され、分かりやすかったです
- ・コーディネーター、議員とも親切丁寧な説明が良かった。稼働率アップ、行政（財布）、公共施設の施設利用の効率化。議員と市民の行政チェックになれば良い。

3. ご意見等ありましたらご記入ください

- ・会派の取り組みとして、非常に参考になりました。素晴らしい内容でした。今後もよろしくお願いします。
- ・公共施設マネジメントは秦野も課題です。合意形成・世論形成に向けて、このようなワークショップ方式が有効かと思います。
- ・住民が具体的に关われる案件の話し合いが面白かった
- ・一方、観念的なはなしになると話す人が決まってしまって、ここで話すべきなのかと疑問も。大事なことからこそ、淡々と冷静に話す技術が必要なのですね
- ・今回は初めての参加となりましたが、この住民協議会が二度しか行わないものであったせいか、総じて住民の参加が受け身であるように感じられ、また誰か集約させる方向ではなくなり行きまかせ。しかし市民への公の活動への参加意識を高める意味では非常に大切な試み